

鶴田町学力向上推進委員会 家庭学習新聞

まーなび

MA-NAVI

2013(平成25)年

7月18日

木曜日

- ▶中野教育長に聞く 1面
- ▶鶴小・鶴中の情報 2面
- ▶水小・菖小の情報 3面
- ▶つるパパのつぶやき 4面

鶴田町学力向上推進委員会 問い合せ先 鶴田町教育委員会 学務総務班 TEL 0173-22-2111

家庭学習を習慣化させようというこの課題は、正しい廊下歩行の仕方と同じで、どこの小中学校でも取り組んでいることだと思いますが、なかなか定着までは至っておりません。やはり生活習慣にも一因があるのではないか。そこで、就寝と起床時間が刻を守り、朝食をしっかりと取る、この「早寝早起き朝ごはん」の三つのサイクルだけでも確立すると、一日の生活が安定します。しかし、部活動があるからといって、寝る時刻が遅くなったり、その延長線上にあります。

学校でも脳の働きがよくなるため、授業がわかり楽しくなります。家庭に帰つているので必然と机に向かうようになり、習慣化が図れるようになります。元気がなくなってしまふからです。

まず、「早寝早起き朝ごはん」という生活習慣を大切にしながら、帰宅时刻を決め、そして夜眠るまでの時間の行動を書き出してみることです。その中から、食事や入浴などの時間を引くと、残り時間はそう多くないはずです。

時間があり多くないといふればならない学習をしない自覚を持ち、まずやらなければなりません。

終わりに、ご家族の協力のもと、児童生徒の家庭学習が習慣化することを期待しています。

こうすることによって、学校でも脳の働きがよくなるため、授業がわかり樂しくなります。家庭に帰つているので必然と机に向かうようになり、習慣化が図れるようになります。元気がなくなってしまふからも勉強する時刻が決まつてるので必然と机に向かうようになり、習慣化が図れるようになります。元気がなくなってしまふからです。

まず、「早寝早起き朝ごはん」という生活習慣を大切にしながら、帰宅时刻を決め、そして夜眠るまでの時間の行動を書き出してみることです。その中から、食事や入浴などの時間を引くと、残り時間はそう多くないはずです。

時間があり多くないといふればならない学習をしない自覚を持ち、まずやらなければなりません。

終わりに、ご家族の協力のもと、児童生徒の家庭学習が習慣化することを期待しています。



中野 雄臣 教育長

中野教育長に聞く

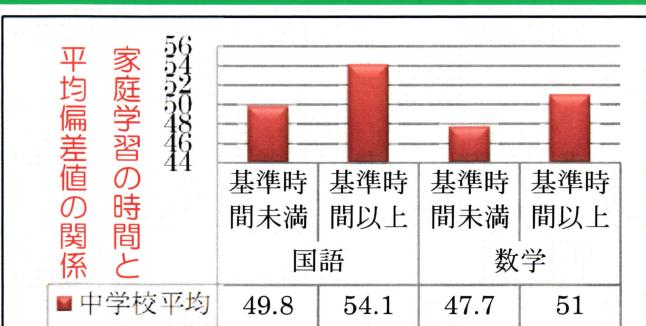
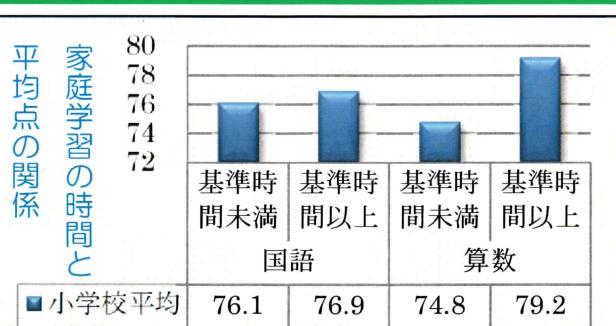
— 家庭学習は生活習慣の安定から —

文部科学大臣賞受賞記念 鶴田町食育フォーラム H25.8.1 国際交流会館・豊明館

「つるりん」と一緒に「食」を学ぼう

当日は、ゆるキャラ大集合! やなせたかし
クイズやカルタ大会もあるよ!!

鶴田町でアンケート調査を行った結果、家庭学習をする時間が長い人ほど学力は高いという結果がでした。



※1・2年生は20分、3~6年生は(学年)×10分を基準にしています。

※60分を基準にしています。

鶴田町学力向上推進委員会
平成二十二年十一月調査会



町内小・中学校での家庭学習への取り組みを紹介します。今回は鶴田小学校・鶴田中学校・水元中央小学校・菖蒲川小学校です。その他の学校は次号で紹介します。

- 【低学年】
「家庭学習5つのポイント」を守って、宿題をしつかり行う。
- 【中学年】
「家庭学習5つのポイント」を守って、進んで一人勉強を取り組む。
- 【高学年】
「家庭学習5つのポイント」を守って、計画的に一人勉強に取り組む。

【学年ごとの家庭学習のめあて】

- ①時間を決めて毎日続けよう
- ②「ながら勉強」はやめよう
- ③ていねいに書こう
- ④分からぬ時は教科書などで調べよう
- ⑤家人にみてもらおう

鶴田小学校では、学年ごとにめあてをもつて家庭学習に取り組んでいます。

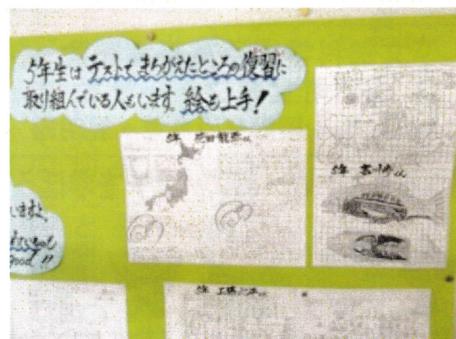
鶴田小学校



廊下に各学年の家庭学習ノートを紹介しています。

一人勉強が始まる三年生は、「鶴田町家庭学習の手引き」を参考にしながら取り組んでいます。また、各学級でがんばっている児童の一人勉強を学級通信で紹介するだけではなく、全学級での取り組みの様子を児童玄関に掲示しています。これらを参考にし

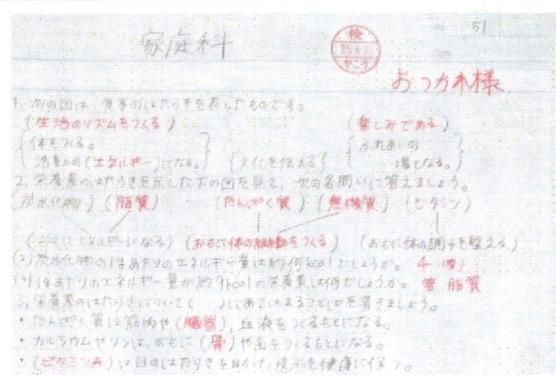
て、内容やノートの使い方を工夫する児童が増えました。この全校掲示は定期的に貼り替え、頑張っている児童をどんどん紹介していく予定です。



どんなところがいいのかコメント入り!



先生の一言コメントがうれしい!



中学校になると、家庭学習のノートも字が小さくなつてページいっぱいに書くようになります。部活もあり大変ですが、みんな頑張っています。

家庭学習ノート紹介

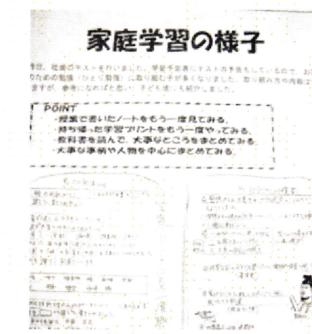
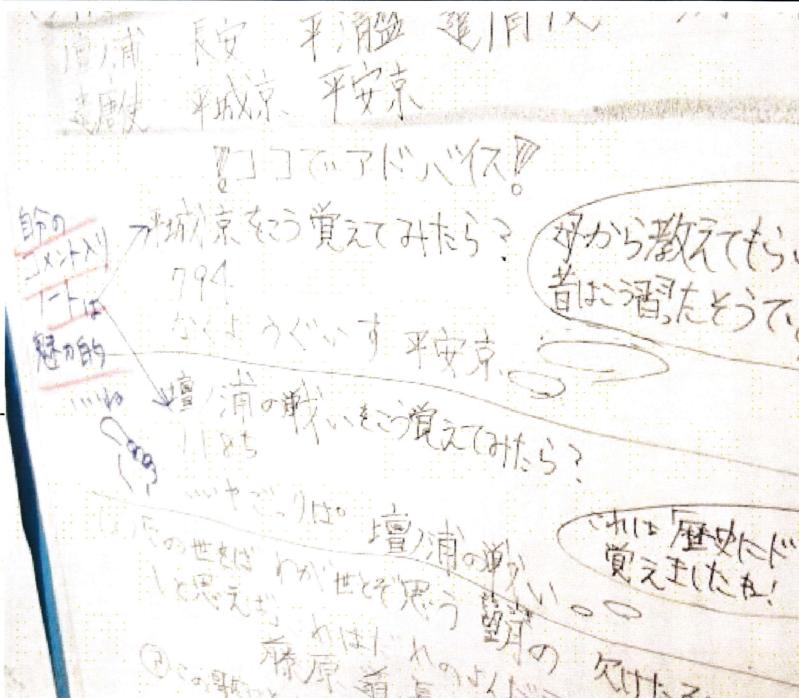
鶴田中学校

本校では、学習習慣の形成と家庭学習の充実のため、次の四つに重点を置いて取り組んでいます。

- ・家庭での学習習慣の形成
- ・学年相当のめやすと/orを図る。
- ・時間の確認し、定着を図る。
- ・個々の学力に応じた学習内容を工夫する。



全校のみんなにノートを紹介しています。



学級通信でも紹介しています。

水元中央小学校

水元中央小の家庭学習の取り組みから

家庭学習の様子

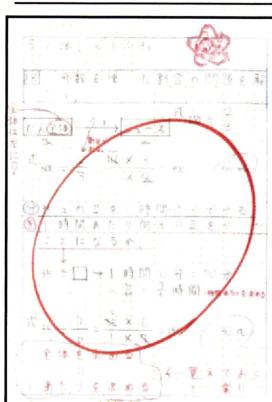
各家庭でノートをもつて家庭学習を行っています。お子さんの意見など、お母さんと一緒に意見交換したり、お子さんと一緒に読み物を読んだり、お子さんと一緒に手書きをしてもらったりなどの活動を行っています。お母さんたちが「お子さんと一緒に家庭学習をするのが楽しくて、お子さんも楽しんでいます」と喜んでいました。

【おひな子】
おひな子はノートをもつて家庭学習を行っている。
お母さんは家庭学習プリントをもつてやっている。
お母さんも読んで、大事なところを書くのである。
大事な事柄や人物を中心にしてまとめてある。

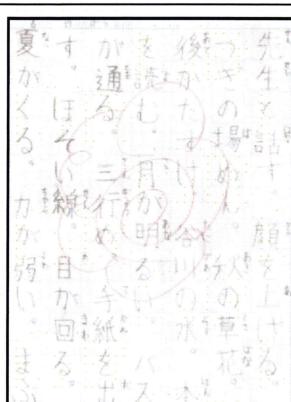
学年の家庭学習のめやす

1～2学年	1日	10～20分程度
3～4学年	1日	30～40分程度
5～6学年	1日	50～60分程度

この子のノートは、お家の人の協力もあって、とても効果的に学習ができているようです。先生のコメントのとおり「魅力的」なノートですね！



★高学年（六年生）のノートより



★低学年（二年生）のノートより

「子どもたちの学力を高めるには、家庭と学校とが共通の認識をもつことが大切です。」

「チャレンジ菖蒲っ子・家庭学習で学力アップ」より抜粋

- ・家庭学習は、困難に打ち勝つ意志の強さや自己管理能力を育てます。

- ・家庭学習の時間のめやすは、学年×10分です。

菖蒲川小学校

チャレンジ菖蒲っ子

家庭学習で学力アップ！



家庭学習をがんばっている子どもたちのノートを、掲示板で紹介しています。

つるパパのつぶやき

「家庭学習とは
習慣を身につけさせる」と

梅沢小P.T.A会長
鈴木 秀樹

宿題とは、【学校の正規の授業時間以外に、主として家庭で行うよう、教師によって生徒に課される学習】とあります。

私は、学校での授業の不足がちである復習学習+αが先生からの宿題だと思います。家庭学習とは、家庭での場面で「学習習慣」という環境のもとで「学習習慣を身につけさせる。」ことであると思っていますが、しつけとは違ったものだと思っています。

私は、学校の授業で十分だと思っていますので、特別なことを押しつけようとも思っていないません。しかし、先生から課された宿題やひとり勉強・音読などは、子どもの義務であると思っています。また、宿題でもひとり勉強でも、わからない部分があればヒントを与えて考えさせて

いますが、基本的に分からない部分は、教科書やノートを見直すか、どうしても分からない部分は学校に行つて先生に聞きなさい！と言つています。

その「先生に聞くという行動」が必要だと思います。子どもが自ら先生に聞くという行動を繰り返すことができれば、学習への意識・意欲の向上につながると思います。

私が、小さい頃は、暗くなるまで野球などで遊んでいた記憶しかありませんし、宿題は夏休みや冬休みにやった記憶しかありません。今の子どもたちは昔にくらべて大変だな」と感じています。

三十年前にくらべると、百四十時間の授業時間が減少されていることも、学校・家庭学習の色々な面に響いているのではないかでしょう。

私は家庭学習の手引き・実践編の三八、四五ページにあるワンポイントアドバイス

「筆算のあとも残しておきましょう」を参考にし、なぜ間違っていたのか確認させるた

め、間違いを残しておくよう子どもに言っています。

「ほめてのばす」

富士見小P.T.A会長
長内 勝靖

私が幼少の頃は遊びに忙しく、学校から帰つてくるとランドセルを置いてすぐ遊びに出かけていました。そして家に帰ると怖い顔をした母と、宿題が待っていました。

「まだ宿題やねん遊びに行つて！はやぐ宿題やれ！」

これがほぼ毎日母に言われる言葉でした。

そんなある日、たまたま遊び友だちが見つからず、やることがなくて仕方なく宿題をやつていました。母が帰ってきたら、びっくりした顔をしました。

た後に笑顔で、「すつごいなあ、よく宿題やつてらな」とほめてくれました。

「すつごいなあ、よく宿題やつてらな」

「家庭学習のあり方」
鶴田中P.T.A会長
棟方 博之

私が幼少の頃は、今の子ども達に比べ、宿題が少なかつたように思います。また、今思えば家庭学習での勉強のやり方、進め方が分かっていな

とが大好きだと思います。一度ほめられると、次はもつと頑張つてもっとほめてもらおうと思う、と私は思います。ですから、私の子どもにも、頑張つたらほめることにしています。

そこで我が家では、鶴田町学力向上推進委員会で発行している家庭学習の手引き・実践編を参考にしてみました。まず初めに、基本的生活習慣の確立と、早寝早起き、食事の生活リズムの向上を目指しました。

また、勉強のやり方、進め方についても、家庭学習の手引きの最後のページにある、学力向上のための保護者へのワンポイントアドバイスも、各ページにある、ワンボブ友だちが見つからず、やることがなくて仕方なく宿題をやつしていました。母が帰ってきたら、びっくりした顔をしました。

「保護者自身が教育への関心を持つ」「子どもの家庭学習への関わりを持つ」等を実行することで、子どもたちの勉強のやり方も変わつてきます。

